

再 評 価 調 査

整理番号 2

担当部局 土木部道路建設課 国道G 内線4424

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	国道354号土浦バイパス
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	土浦市木田余～土浦市手野町
(5)採択年度	平成3年度	(6)完成予定年度	平成32年度
(7)事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 鹿行地域と県南、県西地域を結ぶ広域幹線道路の整備により、地域の連携強化を図る。 常磐道土浦北ICと鹿行方面とのアクセス向上を図る。 土浦市手野町地区の幅員狭小区間の解消と土浦市内の渋滞緩和を図る。 		
(8)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 道路延長 3,980m、幅員 25m/13m、4車線 用地買収、道路改良・舗装、橋梁（木田余跨線橋） 		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再々々々評価	(2)当初完成予定	平成15年度
(3)未着工・事業が長期間要している理由	<ul style="list-style-type: none"> 土浦バイパスは、平成3年度から事業を進めてきたが、筆界未定の公団混雑地域の存在や圃場整備創設換地の取得調整等により用地買収が難航したことから、当初の事業計画期間内での完了が困難となり事業が長期化している。 		
(4)前回指摘事項に対する対応状況（再々評価の場合）	委員会の意見	対応状況	
	継続することが妥当である。	指摘を踏まえ、計画に沿って早期完成を目指して事業を進めてきており、平成25年度に約1.5kmの4車線化を図ることができた。	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	平成29年度 → 平成32年度 3年延長
	【理由】用地取得に期間を要し、完成年度が3年遅れることとなった。
(2)事業内容の変更	【理由】 -
(3)事業費の変更	6,800百万円 → 7,800百万円 1,000百万円増
	【理由】地質調査の結果、地盤改良工事費等が増大したことなどによる。

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全 体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(m)	3,980	0	3,230	81%
事業費	工事費	5,327	3,177	66%
	用地買収補償費	2,473	3	100%
	計(百万円)	7,800	3,200	77%
(2)関連事業の進捗状況	手野地区圃場整備 (A=137ha H7～ 進捗率99%) 都市計画道路 土浦新治線 (L=1,860m H3～H32 進捗率86%)			
(3)今後の見通し	工 事		用 地 等	
	平成28年度から木田余跨線橋の拡幅工事に着手したところであり、早期の全線供用を図る。		平成28年度に用地取得が完了した。	

5 評価内容

(1)事業の必要性	本路線は県南西部を横断する重要な幹線道路であり、当該区間は幅員狭小で線形不良のため通勤時間帯等には交通混雑を引き起こしている。さらに霞ヶ浦大橋無料化、都市計画道路土浦新治線の供用、及び土浦協同病院のおおつ野への移転により交通量が増加していることから、未改良区間をバイパス化し、円滑な交通を確保する本事業の必要性は高い。					
	社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況
	国道354号土浦市菅谷町地内交通量	10,299台/日	18,151台/日 (H27セナス)	-	-	-
(2)事業の有効性	本事業の実施により、土浦市の木田余から手野の間(約4km)の通過時間が約5分短縮されるとともに、現道の交通量が約36%減少することが予想されることから、本事業は利便性の向上等に有効であると考えられる。					
	効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり
	土浦市木田余～土浦市手野までの通過時間(H42)	9.8分	4.7分	土浦市手野町現道交通量(H42)	22,700台/日	14,500台/日
	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり
	将来交通量(H42)土浦市木田余	10,700台/日	12,300台/日	-	-	-
(3)事業の効率性	ア) 主な効果 (B) ①当該路線の整備により、土浦市木田余から手野までの約4.0km区間において、走行時間の短縮(143億円)、走行経費の減少(6.9億円)、及び交通事故の減少(0.6億円)億円が図られる。(計150.5億円) ②土浦市街地の交通混雑が緩和されるとともに、常磐自動車道 土浦北ICと鹿行方面とのアクセス向上が図られる。 ③現道は、上大津西小学校、土浦五中の通学路に指定されており、手野町地区の線形不良、幅員狭小、歩道未設置区間が解消されることにより、通学生徒など歩行者・自転車の安全性の向上が図られる。 イ) 主な費用 (C) ①事業費 108億円 ②維持管理費 4億円 計 112億円 主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C = 1.34					
(4)地元の意向	国道354号整備促進協議会(会長:土浦市長、関係市町村:古河市、境町、坂東市、常総市、つくばみらい市、つくば市、かすみがうら市、行方市、鉾田市)から、茨城県南部地域の各都市間の交流・発展の促進と、幅員狭小区間等の解消のため、早期完成の強い要請がある。					
(5)コスト縮減や代替案立案の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 建設発生土の利用によりコスト縮減を図る。 再生材の活用によりコスト縮減を図る。 					

6 対応方針

土浦市内の交通渋滞の緩和や常磐道土浦北IC等へのアクセス強化を図るためにも、事業を継続したい。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

期間内の完成を目指し、現計画で事業を進める。